

南本町 界隈



1 一里塚跡

江戸幕府は主要な街道を整備し、江戸日本橋を基点として一里（約4km）ごとに塚を築かせ、旅人にとっての移動の目安や休憩場としました。ここは北国街道の伊勢町口あたり、高田城下には他に陀羅尼口にも一里塚が築かれました。



2 伊勢町口番所跡

高田城下には、伊勢町口（南本町1）、陀羅尼口（北本町3）、稲田口（東本町5）の3か所に番所が設けられ、城下を出入りする通行人や荷物の取り締まりを行いました。ここ伊勢町口は、信州方面の出入口にあたります。



上越市天然記念物

3 最賢寺の大イチョウ

真宗学者、金子大栄を輩出した最賢寺の境内に、樹齢300年以上ともいわれるイチョウの巨木がそびえており、市の天然記念物に指定されています。秋には黄金色に紅葉します。

4 正輪寺の芭蕉句碑

松尾芭蕉は、元禄2年（1689）7月、弟子の曾良を伴って、「奥の細道」の途中、今町（直江津）と高田を訪ねています。地元の俳人たちが芭蕉を招き、句会を催しました。正輪寺の句碑には「景清も花見の座には七兵衛」の句が刻まれており、芭蕉の没後70年に建てられた市内で最も古いものです。



上越市指定文化財

5 瑞泉寺 梵鐘

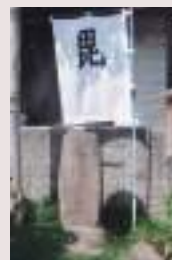
高田の名物として聞こえた「時の鐘」は、寛文6年（1666）、城下に時刻を知らせるため、呉服町（現本町3）の町年寄 吉田七兵衛の屋敷に設けられました。一時（2時間）ごとに昼夜12回、その音は、「越後高田にすぎたものは、犬、寺、道心（仏教徒）、時の鐘」とうたわれたほどでした。以後、210年間、1日も休まず打ち続けられました。時代は明治となりその役目を終えましたが、瑞泉寺がこの梵鐘を譲り受け、今に伝えられています。梵鐘は、市の有形文化財に指定されています。



コラム

馬塚古跡

永禄4年（1561）、4回目の川中島の激戦の際に傷ついた上杉謙信公の愛馬が春日山城への帰路、この場所で力尽きたため、塚を築き葬ったと言い伝えられています。この馬塚が由来となり、この辺りは昔、外馬塚町と呼ばれていました。



国登録有形文化財

6 高橋孫左衛門商店

寛永元年（1624）創業の高田藩の御用鮎屋。『東海道中膝栗毛』の著者としても名高い十返舎一九も来訪。一九の『諸国道中金の草鞋』の中で、当時の店の賑わいととも、栗鮎を「上品にて風味良く此所の名物なり」と紹介しています。母屋は、国の登録有形文化財です。

所在地 南本町3丁目7-2
TEL 025-524-1188

コラム

メテレスキーの地

レルヒ少佐（P32で紹介）による日本で初めてのスキー指導は、旧陸軍第13師団第58連隊の営庭（現在の市立城西中学校付近）で行われました。スキー指導は「メテレスキー（mettez les ski）（スキーを履きなさい）」の号令から始まりました。以後、レルヒ少佐が伝えたスキーは、高田から全国へと広がっていきます。大正時代になると、スキーの生産は上越を支える一大産業へと発展していきました。



コラム

城下町特有の交差点

城下町の特徴的な交差点の形として、道路を直交させずにわざとずらして交差させた食い違いの交差点があります。これは、城下の防備のためのものとして城下町によく見られます。この交差点も城下町高田で今も残っている食い違いの交差点です。道標（P20で紹介）のあった本町7丁目の交差点も同じような形をしています。